# 生々流転

1989

前川知賢詩集

東海現代詩人会

詩集

# 生々流

江苏工业学院图书馆
藏书章

前川知賢

**前川知賢**（まえかわともかた）
明治40年6月三重県上野市郊外大谷に生れ（八ヶ月児）、幼時渡鮮、13歳の時母を失い、父の手に育てられる。京畿道立龍山中学校（4年修了）、山口高等学校（文乙）を経て昭和5年3月京都帝国大学哲学科卒、戦前は鮮満にあって活躍。引揚後三重県立名張及び久居高校教諭を経て、中京大学教養部教授となり、昭和53年3月定年退職、しかし以後も同大学の社会科学研究所研究員として残留、今日に至っている。現住所、三重県四日市市中川原3丁目7—20（電話0593—53—4052）


詩集　生々流転

1989年10月25日　初版印刷
1989年10月30日　初版発行
著　者　前川知賢
発行者　同　上
発行所　東海現代詩人会
〒510　三重県四日市市中川原3丁目7-20
電話　四日市（0593）53—4052
印刷・共栄印刷㈱製本・㈱修明社製本所

定価　1,545円（本体1,500円）

# 詩集　生々流転　目　次

Ⅰ
そびえ立つもの 7
生々流転 11
第一印象 14
永劫回帰 18
Ⅱ
失楽園序曲 23
不死鳥 27
永遠の叛徒 31
慟哭今も 34
郷愁 37

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

羊どし 42

Ⅲ

生の直接所与 47
物質と記憶 49
創造的進化 52

Ⅳ

球論素人談議 57
球児無念の果 60
陰の陰で 63
あとがき 68

# I

# そびえ立つもの

より正確には
マスコミよりもマスコミに寄食する
評論家に対してだが
わたしはいつも快適でないものをもっている
と、文学浪人の一老人が僕にうちあけた
彼のいうところには、全く身につまされるのだ
彼はいう—
その中のひとりによると
わたしは拙劣の見本であり　悪の典型でもあるんです
それはそれでよいのだが

こんどマスコミの　一つが　付近一帯をまとめて
インテリジェント・ビル化するという
インテリジェントビルとは何か
これまでの建物の機能に
高度の情報通信システムとビル自動管理システムとを結
合し
これを中央のコンピューターで統御する情報化ビルで
いわば情報化の中心ビルである
すでに大阪で成功したが
こんど名古屋に出現のそれは
二十八階建てで
但しマスコミの仕事場は一〇階までであり
一〇階以上はホテルで
ごく近代的な施設の四百数十室からなっているという
理論はともかくとして



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

二十何階建てというイメージが抑々問題であり
わたしにとって、一介の文学浪人のわたしにとっては
またも恐怖の出現ですという
ひとつの進歩ではあろうが　しかしそこで
自由はどうなる　個人はどうなるのでしょうか
インテリジェントビル化はファッショ化ではないのか
同社の近くにあった小ビルのわたしの知人は台湾に退き
その隣りの小商社は転業したという
おお　あたらしい時代のはじまりだ
ファッシズムの出現と迄はいわぬが
あたらしい脅威の出現だ！と、彼は叫ぶのだ

時恰かも僕も一つの定職から退任したというより
させられたのである
あたらしい忍苦　より長い戦いのはじまりだが

彼の打ちあけた話はそっくり思想浪人にもあてはまる
おお　僕もまた生れかわらされるのだ！

# 生々流転

——沸沸止むこともない

もり上ってはくづれ　もり上ってはくづれ
止む時もなく　留る時もない
かつてテレビの画面で見た
黄河の最上流　始源の谷間の水のイメージだが
常々深く　こういう生き方こそ　自らのそれだと
共感を覚えているのだ

教授退職後十余年の大学へ今も通っているが　そこに
社会科学研究所というのがあり　最近
名誉研究員という制度が設けられ

私と同年か　あるいは若いひとが
名誉研究員に推戴された
御本人は得意であり　満悦の態だが
私にはそういう話はないし
たとえ推戴されたとしても　これを好まぬものだ
ひとくぎりつけたとか　認められたとか
適当な制度だなどと思われるかもしれぬがしかし
その時点ですでに完成したということであり
あなたの目標はそこ迄だったのですよ　といわれること
　じゃないか
こういうことは私のとらぬところ
永久に研究員で結構
そのままにしておいてもらいたいのだ
中小企業の世界は永遠に動いており
無告の民は限りなく存在するからだ

何よりも痛感されるのが
時々刻々に増加してゆく問題であり　難題の累増だ
施策対策もこれに即応
くづれてはもり上り　くづれてはもり上らねばならぬ
永遠に流転があり
永遠に新しい生が求められるのだ

くづれてはもり上げ　くづれてはもり上げ
止む時もなく　留まる時もあってはならぬ

# 第一印象

大学へ進学しようとした時
ある会社の人事主任から奨学金受領への合格秘訣として
第一印象をよくしなさい
といわれた
僕は文科志望で　会社向きの法科や経済科への希望はなく
そんなものかなあと　無関心だったが
実に六十年後の今日　その意味が判ったのである
僕の納める品が悉く不採用となり
最近は納入もさしとめられたのである
第一号から駄目だったのであり



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com